

建築物等景観マニュアル

「三島らしさ」のデザインコード

建築物等景観マニュアル

目次

はじめに	2
～「三島らしさ」のある景観とマニュアルについて～	3
～マニュアルの構成について～	4
～マニュアルの利用方法について～	5
壁面デザインの構成	7
I. 建物周辺（道から建物への中間域）	
I-1 道と敷地	緩やかな接点 8
I-2 垣・植栽	三島の樹木～三島溶岩石積みと生垣 10
I-3 駐車スペース	心地よいみどりの駐車場 12
I-4 水辺の接点	湧水と川と人の生活 14
II. 建物	
II-1 配置・かたち	景観に優しい配置とかたち 16
II-2 屋根	風景に優しい屋根は 18
II-3 壁	まち並みにあう壁面 20
II-4 窓	壁面に変化を付ける窓のデザイン 22
II-5 看板建築物的装飾	三島の近代化を受け継ぐ 24
II-6-1 付属：窓格子	26
II-6-2 付属：花台と窓手摺	27
II-6-3 付属：庇・霧除	28
II-6-4 付属：その他（格子の活用）	29
おわりに	30
用語の解説	31
参考資料	32

はじめに

このマニュアルは、平成20年度に策定した『三島市景観計画』をもとに、さらに一歩進めた景観形成を推進するため、「三島らしさ」のある景観づくりのテキストとして作成しました。

建築主や設計者・施工者が、今後建替えや修繕の際に景観形成のデザインの参考として活用されることを期待します。

「三島らしさ」のある景観の統一的な基準とし、まちづくりのルールとしてとらえ、美しく潤いあるまちづくりを進めましょう。



水と緑と人が輝く三島の景観づくり
～優れた自然・歴史・文化を未来に活かす～

～「三島らしさ」のある景観とマニュアルについて～

三島の風景は、恵まれた自然環境と熟成された歴史を持つ地域社会を背景に生まれ、建物やまち並みは人びとの身の丈に近い暮らしから生まれました。

三島の景観を考えるにあたり、この自然環境的要素と歴史・文化的要素が非常に重要になり、さらにヒューマンスケールなもの作りが大切になります。

景観マニュアルの各項目では、次のような「三島らしさ」のある景観手法を提案しています。

建物周辺

- 三島の植栽等
- 三島の水辺の接点

建 物

- 富士山の眺望を意識
- 「三島らしさ」のかたち、富士山型
- 「三島らしさ」の素材は
- 歴史から学ぶ三島の看板建築

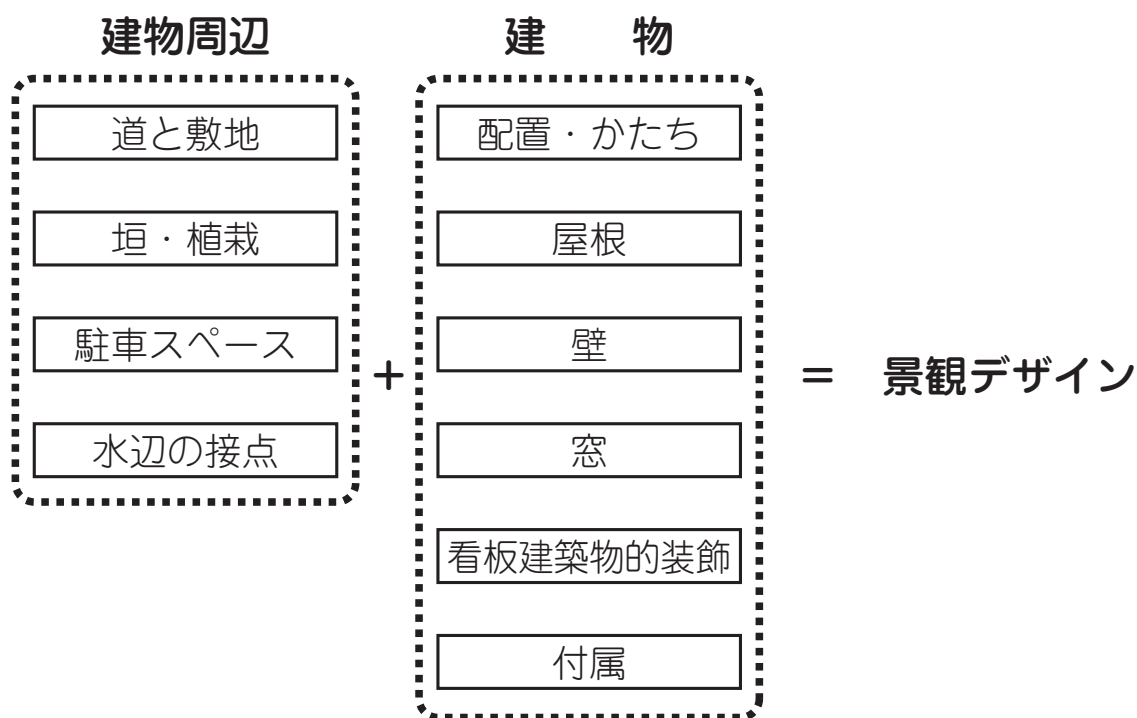
～マニュアルの構成について～

このマニュアルの作成にあたっては、三島市景観計画の景観形成基準のうち、特に重要性の高いと思われる「壁面デザイン」に注目しました。

「壁面デザイン」を基本コンセプトにおいて、さらにまち並み景観構成要素の分析を行い、2つの大きな項目を構成しました。

第1は、「壁面デザイン」を拡大解釈する中で、「建物周辺」の4つの重要な要素を提案しました。ここでは、道や水辺と敷地の関係を緩やかに計画することによる三島の景観形成を提案しています。

第2は、「建物」を6つの部位別に分けて提案しました。建物本体は、特に「三島らしさ」のある景観を形に求める提案をし、いずれもデザイン手法の提案や具体事例の紹介をしています。



～マニュアルの利用方法について～

景観マニュアルは、「水と緑と人が輝く三島の景観づくり」のために作成されました。建築主や設計者・施工者が建物を建てようとする場合、その計画を進めていく上で、景観形成に参考になるデザイン手法や留意すべき点を具体的に記載しています。建築場所や建物用途によっても利用方法が異なりますが、基本的景観形成のために大切なことを提案していますので、ケースに応じて内容を選択的に利用し、三島の景観をみんなで創っていきたいと思います。

各項目の課題（四角で囲まれた部分）は、利用者の積極的判断を期待します。

建築条件別に

■ 建物の建築場所により

市街地→まちの空間

市街地周辺→住宅地の空間

農村部→田園の空間

■ 建物の用途により

専用住宅

共同住宅

店舗

事務所

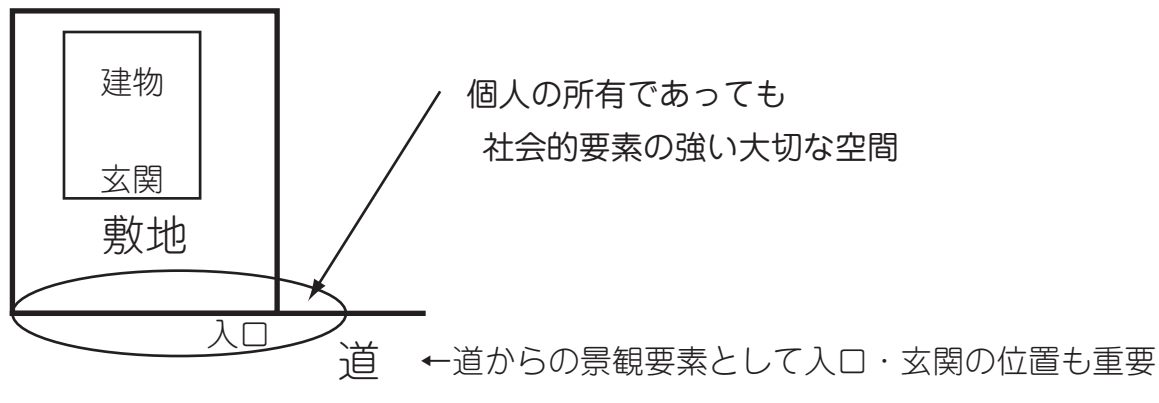
その他の用途

壁面デザインの構成

- I. 建物周辺（道から建物への中間域）
- II. 建物

I - 1 道と敷地 緩やかな接点

道と敷地の接点、建物へのアプローチ、庭等を考える



景観づくりのために

- ・道に対して開かれた屋外空間とする
- ・周囲との調和によりつながりのある屋外空間とする
- ・緑豊かな屋外空間とする
- ・工作物等は自然素材を用いたものとする



開かれた小路



三嶋暦の館（旧河合家）

シークエンスデザイン（移動空間を考える）

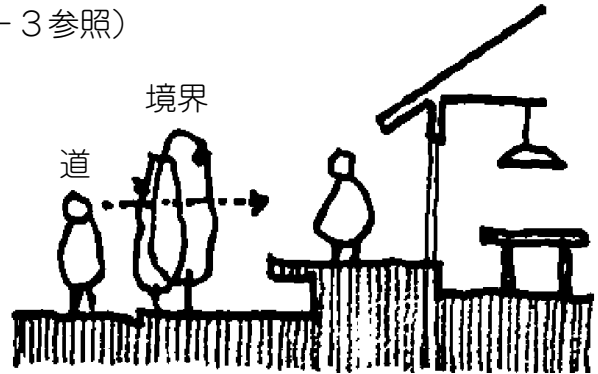
大きな敷地や周辺の敷地とのつながりを考慮して計画をおこなう場合、庭や広場等の道に接する部分に景観的な要素を配置することにより、シークエンシャルな空間となり、歩行者の意識の変化が生まれ、魅力的な空間となる。

※ 建物の配置計画も影響が大きい

屋外空間づくりの手法

- ・ 将来ランドマークになりえる高木の植樹（I-2参照）
- ・ 生垣や植栽（I-2参照）
- ・ カーポートを利用したポケットパーク（I-3参照）
- ・ 雨宿りの軒下、樹木
- ・ 井戸端会議のできるベンチ等

道から
生活の気配を感じる
境界づくり



工作物等



格子戸の門



水路の橋

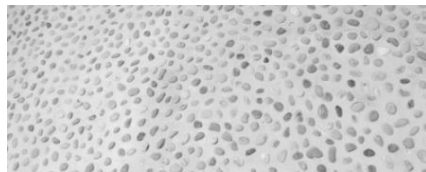


ベンチ

アプローチ床の自然素材



石：三島溶岩



砂利洗い出し



砂利敷き

■ 課題

公共性とプライバシーの両立を考慮する。

I - 2 垣・植栽

三島の樹木～三島溶岩石積みと生垣

三島の樹木



三島桜



イチョウ並木

河川沿いや街道沿い、地域の神社や寺など身近なところに巨木名木や特色のある樹木があります。

- ・三嶋大社のキンモクセイ
- ・三島駅のケヤキ
- ・御殿川のシダレヤナギ
- ・箱根の松並木
- ・長伏公園のサルスベリなど



シダレヤナギ
(御殿川)



樹齢 300 年のカヤ
(大場神社)



ケヤキ
(三島駅)



中木での目隠し



高木と低木での目隠し

三島溶岩石積みと生垣



自然系溶岩石積み



成形された溶岩石積み

竹垣の種類

目隠しやしきりを目的とし見た目の姿のよさなど、三島溶岩と生垣や竹垣の組み合わせは多種多様です。竹垣は作成に手間もかかりメンテナンスも大変ですが、植栽との調和が美しく、地震のときブロック塀のような倒壊の危険がありません。

- ・ 編みこみ垣
- ・ 透かし垣
- ・ 遮蔽垣
- ・ 枝穂組垣
- ・ 袖垣

など



編みこみ垣（沼津垣）



透かし垣（四ツ目垣）



遮蔽垣（建仁寺垣）

市の生垣づくり

市から配布されている生垣用の苗木があります。

【配布の種類】

サンゴジュ、サザンカ、カイズカイブキ、マサキ、レッドロビン、イヌマキウバメカシ、シラカシ、ネズミモチ

（1メートル当たり3本以内）

植樹等の提案

「道に面した樹木には、ネームプレートを付けませんか」



■ 課題

生活の様子を感じられる、目線を意識した生け垣の高さや、樹木・植栽の種類や位置を工夫する。

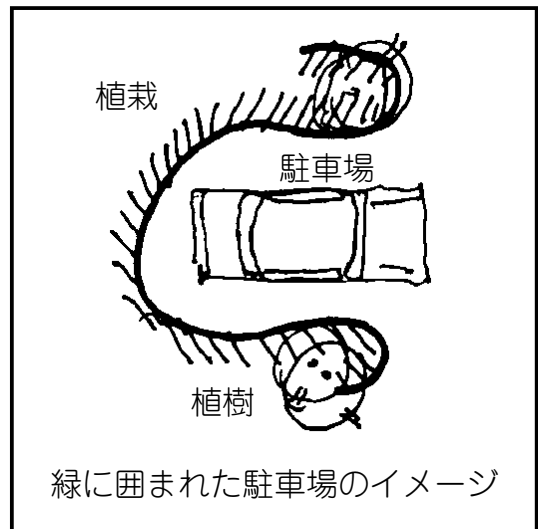
I-3 駐車スペース 心地よいみどりの駐車場

景観によい駐車場とは

- ・道から見えにくい位置とする
ただし、出入口は歩行者の安全を考慮した位置とする
 - ・敷地の狭い市街地等で、道に対して前面が全て駐車場になる場合は、最小限の植栽・植樹（中木以上）を配置する
 - ・出来る限り植栽や塀等により視線を遮り、外部より車が見えないように工夫する
 - ・大規模な駐車場は、特に道から見えないところに配置し生垣や植栽等を配置することで周辺の環境や景観を考慮する
- 広い敷地の場合は、植樹（高木）を多数配置する



減築により前面駐車場とし植栽を行う



植込みと交互の駐車場

みどりの駐車場づくりの手法

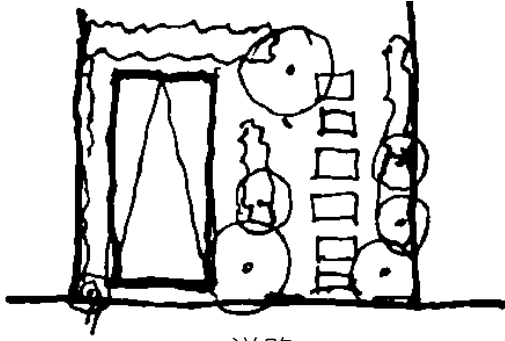
視線遮断と緑化へ

- ・生け垣
- ・植樹、植栽
- ・塀と植栽
- ・棚
- ・築山と植栽
- ・斜面や駐車場のレベル変化

前面駐車場に対する提案

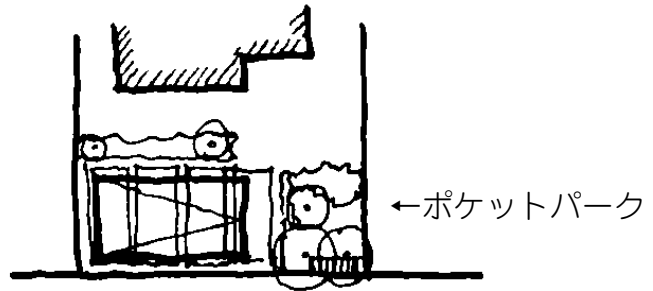
住宅地等で道と一体になるカーポートのつくり方

■ 駐車場をミニ雑木林に



道路

■ 駐車場をポケットパークに



道路



◀大型駐車場に植栽と植樹を配置することで、歩行者の目線を和らげ環境と景観に考慮した例



◀立体駐車場を格子フレームにより構造体を隠し、前面の植栽と植樹により道路側の景観に考慮した例

駐車場（個人駐車場含む）に工作物を作る場合は、景観に配慮したデザインや構法・材料を選択する。

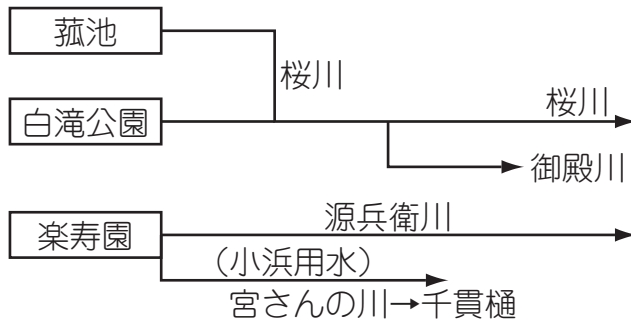
■ 課題

必要駐車台数と植栽面積のバランスを考慮する。

I - 4 水辺の接点 湧水と川と人の生活

川と敷地の接点、水辺を活かした落ち着いた落ち着きのある建物を考える

<湧水池と川のルート>



三島市街地には、楽寿園・菰池・白滝公園等の湧水池がある。

この湧水が、市街地をいく筋にも流れ川を形成し中郷地区に流れている。

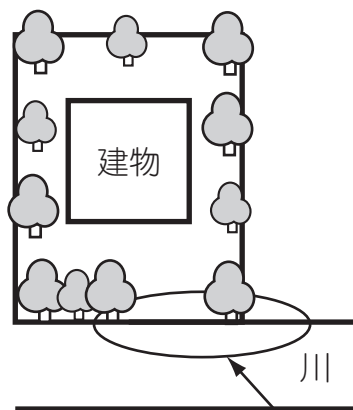
水の流れは、さまざまに変化し（渦を巻き、逆波をたてる等）せせらぎとして立体的に蘇る。



源兵衛川



水辺と建物の原点（楽寿園：楽寿館）



景観づくりのために

- ・川に対して開かれた屋外空間とする
- ・建物は河川境界から離して水と親しむような工夫をする
- ・河川に面する部分は生垣などの緑豊かな屋外空間とする
- ・周囲の景観と調和した落ち着いた色合いの素材を用いる
- ・隣地境界部分などの空きスペースの緑化に努める

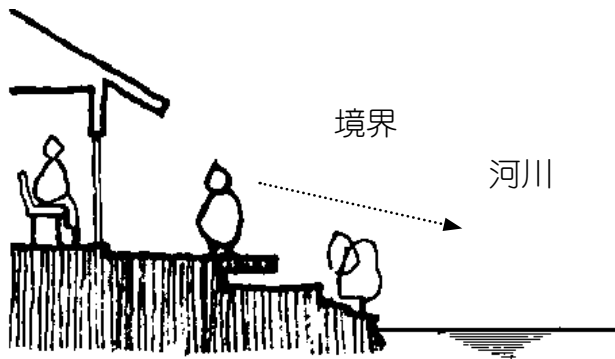
水辺では水と緑を活かした親水空間づくりを行う

水辺の空間づくり

- ・敷地の一部を川の空間として提供する → 緑を川と敷地で共有できる
川の景観づくりの一翼を担う



源兵衛川との接点



- ・水辺を建物の空間づくりに取り入れる
↓
水面を見ながらせせらぎを五感で楽しむことができる

- ・敷地へのアプローチとしての橋
↓
植木鉢などによる植栽による
住みたくなるような景観づくり



宮さんの川との接点

■ 課題

水辺と調和した外部・建物空間を創り出す。

Ⅱ - 1 配置・かたち 景観に優しい配置とかたち

まち並み景観を大切に作る建物の配置

- ・周囲とのつながりを考え調和を考慮する
- ・敷地内の表庭や裏庭の植栽を考慮する
- ・敷地内の古木の位置を考慮する
- ・道からの富士山の眺望を阻害しない形や配置とする

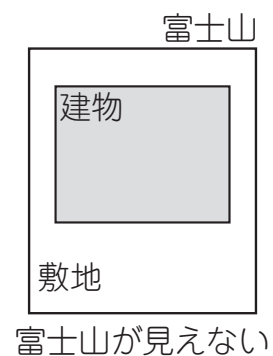
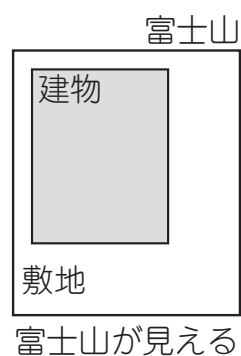
富士山の眺望を考える



市街地の至る所から見える富士山



富士山の眺望を考慮したカーポートの配置



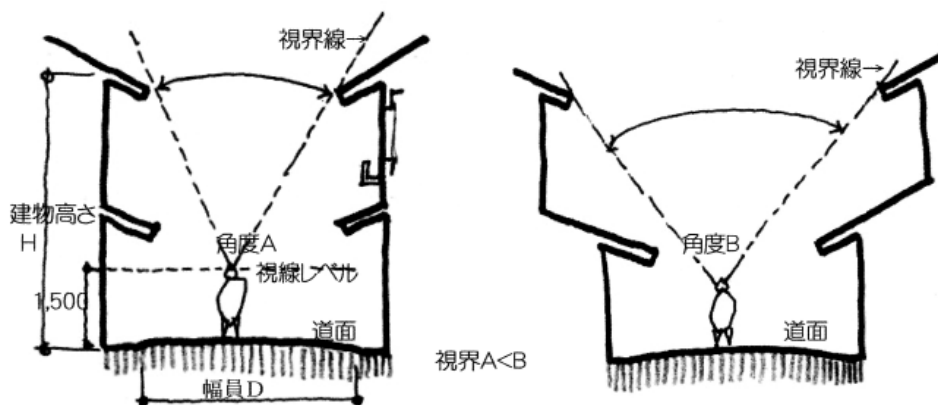
建物のセットバック ～開かれた空間を求め～



道路幅員が狭く、総2階の連棟のため
圧迫感がある。



高い建物が隣接しているため、威圧感がある木造建築の2階部分をセットバックすることにより開かれた空間を演出する。



- ・ 総2階で囲まれた小路空間は、歩行者に閉鎖感や圧迫感を与える
- ・ 上図のようにセットバックすることにより視界線角度がAからBに広がる
- ・ 上左図で小路の巾(D)と建物の高さ(H)との関係調べると、圧迫感を生ずる場合は $D/H=1.0$ 以下が多い
- ・ 道路幅員が狭い場合、特に町中では2階部分のセットバックを考慮する
- ・ 歩行者に威圧感を与えない開かれた空間が演出され、景観、日照、通風などの環境も改善される

■ 課題

敷地周辺の将来の状況を考える。

Ⅱ - 2 屋根

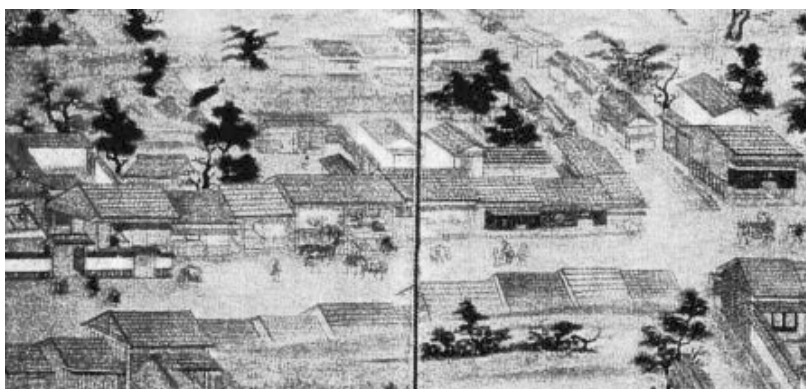
風景に優しい屋根は

「三島らしさ」のある屋根を求めて

- ・ 日本家屋の屋根形式は、大きく切妻と寄棟に二分される
- ・ まち並みとの調和に配慮した屋根形式を考える
- ・ 屋根は自然素材を中心に、周囲との色調も考慮する
- ・ 切妻屋根は、妻側から入るか、桁方向から入るかで「妻入り」と「平入り」に区分される

屋根の方向も重要な景観要素である

東海道の三島宿の屋根



<歴史から学ぶまち並み>

- ・ 屋根形式は切妻
- ・ 材料は板等の自然素材
- ・ 街道に桁方向の屋根が並ぶ
平入り形式

小沼満英筆 三島宿風俗絵屏風より(三島信用金庫所蔵)



「三島らしさ」のある屋根の代表

<「三島らしさ」のある屋根とは>

- ・ 歴史的には切妻屋根が多かった
- ・ 三島駅は切妻が基本形
- ・ 富士山の眺望を考慮した
富士山型の流れ形式の妻入り

屋根づくりの提案



◀宿場町の面影が忍ばれる屋根の例

腰葺きにより軒先が軽快にみえる。

屋根の素材に何をを使うか



いぶし瓦、銅板による二軒

屋根材料の系統

- ・ 窯業系：粘土系 - いぶし瓦、陶器瓦等
セメント系 - セメント瓦、彩色スレート板等
- ・ 自然系：石系 - 天然スレート、抗火石、鉄平石等
草木系 - 茅葺き、檜皮葺き、柿葺き等
- ・ 金属系：銅板系 - メッキ銅板、塗覆装銅板、ステンレス銅板等
非鉄金属系 - 銅板、アルミ合金板、鉛板等



茅葺き



銅板葺き

■ 課題

ビル形式の建物の陸屋根は？

Ⅱ - 3 壁

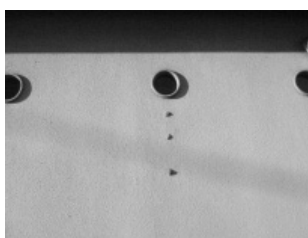
まち並みにあう壁面



なまこ壁と伊豆石の組み合わせ



漆喰壁



左官壁



木材の壁（ささらこ下見板張り）



部分的に木を使用

壁面にはいろいろな部位があるが、時代とともに新しい形・デザイン・材料に変わってきた。

その土地の風土に合った素材や地場で産出・採取されるもの、昔から親しまれている素材を使用したいが、法規制・メンテナンス等で制約があるのが現状である。

部分的でも、できる限り調和のとれたまち並みに合う素材・デザインを考えたい。



木材を使用した塀



木材の面格子

壁（建物外壁・塀・工作物）

建物・工作物の用途によって壁の素材は多種多様であり、材料の特性（テクスチャー・色使い）により表情が違ってくる。また素材の組み合わせ・縦横の方向・巾寸法によっても変わる。

近年、工事費や耐久性の観点から新建材を使用することがほとんどだが、デザインの工夫により、自然な風合い・魅力的な雰囲気を作り出すことができる。



竹を使用した塀



木材を使用した塀



石貼（乱貼）



タイル貼のデザイン

素材

木・石・左官・瓦・塗装材等、日本の伝統的な素材の使い方を工夫することで、建物・工作物の表情を豊かにし、落ち着いたまち並みを演出することができる。



溶岩の護岸と植物



溶岩と木材と植物を利用



窓面の緑化



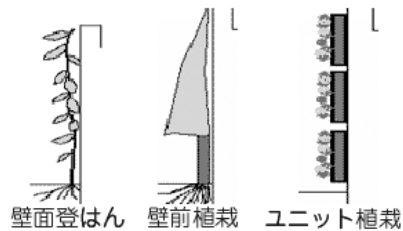
木製格子を利用して壁面緑化

壁面緑化

省エネ・地球温暖化防止の観点で緑化推進が行われている。植物は素材と同様に建物やまち並みを引き立て、演出してくれる。壁面緑化にはいろいろな手法があり、手入れ・メンテナンス等課題もあるが積極的に取り入れていきたい。



格子フェンスと植栽の組み合わせ



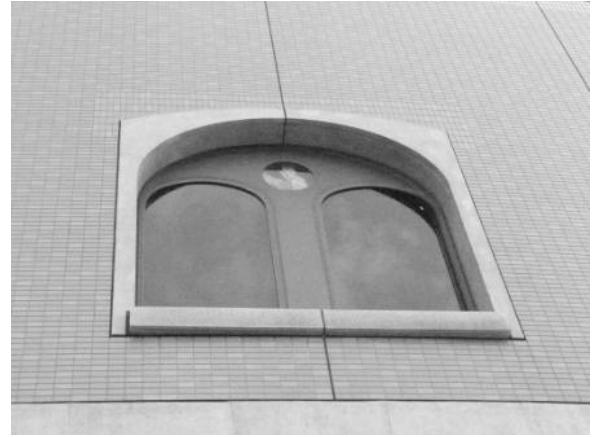
壁面緑化の形式としては、壁面登はん、壁前植栽、ユニット植栽等に分けられる。

■ 課題

日本の伝統的な素材を上手に使用していく。
壁面のデザイン・工夫により三島らしさを演出する。
積極的に緑化をし、落ち着いたまち並みを演出する。

Ⅱ - 4 窓

壁面に変化を付ける窓のデザイン



アクセントを付けた窓のデザイン



小庇を付けた窓のデザイン



窓のデザイン



面格子を付けた窓

建物の窓

多くの建物には窓・開口部があり、ほとんどを窓・開口部で構成された建物もある。配置・大きさ・色・デザインにより建物の雰囲気に加え、まち並みも変わってくる。

窓のデザインの工夫をし、連続性をつけたり、出窓にしたり、面格子等の装飾をして変化をつけるのも面白い。

間取りでの制約はあるが、ちょっとした工夫により魅力的な建物・まち並みを演出できる。



石積みの開口部



格子をデザインした開口部



開口部のデザイン



柱型をデザインした開口部



塀の開口部

開口部

長塀・窓のない建物等のっぺりとした壁面も開口部をとったり、凹凸・装飾をつけたりすることにより、歩行者に圧迫感を与えないような工夫もできる。

■ 課題

窓・開口部を上手に設けまち並みを演出する。
大きな壁面にはアクセントをつけ圧迫感をなくす。
窓等に格子・装飾などをつけメリハリをつける。

Ⅱ－５ 看板建築的装飾 三島の近代化を受け継ぐ

三島の看板建築とは

昭和5年（1930年）の北伊豆地震で三島市街地の多くの店舗が倒壊したが、その後の復興にあたり（昭和8年（1933年）にほぼ終了）、のちに看板建築と名付けられる建物に生まれ変わった。

明治以降日本に伝わった洋風建築に対するあこがれから、建物の正面を銅板や左官による擬洋風建築に飾ったデザインで仕上げられた。

商店街の店舗建築に看板建築的装飾をしつらうことにより「三島らしさ」を生む。



外壁は左官で仕上げられた看板建築（現存）



外壁が銅板で仕上げられた看板建築（現存）



看板建築には珍しい3階立て
（現存：写真は竣工当時）



ルネッサンス建築様式を感じさせるパラペットと装飾

看板建築的装飾の部位別ディテール

看板建築の装飾は、西洋の古典様式から近代様式（アールヌーボー・アールデコ）のデザインをモチーフとして日本の職人技を駆使し、日本的解釈の中で登場した。

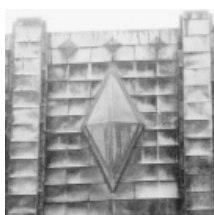
A. パラペット



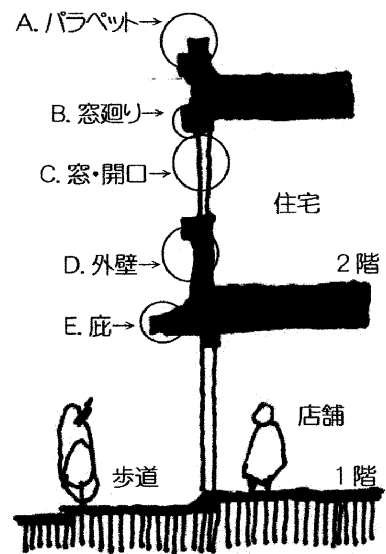
B. 窓廻り C. 窓開・口



D. 外壁



E. 庇



■ 課題

装飾デザインをさりげなくポイントで利用する。

Ⅱ－6－1 付属：窓格子

格子（開口部）の意匠の活用

格子には、外部からの人の侵入や出入りを防ぎ、視線を遮蔽する役割や効果があり、通風や採光等の自然環境を調節する機能がある。

格子の素材：木・竹・金属等



虫籠窓（虫籠格子）



既存窓を格子により隠し、趣を醸し出している。
（既存改修）



格子



伝統的な格子の形



切子格子（2本通し2本切子）

■ 課題

伝統的な格子デザインを継承する。

Ⅱ－6－2 付属：花台と窓手摺

窓や開口部廻りの仕掛け

外観を構成する要素として様々な形の開口部や窓があるが、その部分にアクセントを付けている伝統的な方法のひとつが花台や手摺である。



腰掛窓と手すり



腰掛窓と手すり



花台



肘掛窓と手すり



バルコニーの格子状手摺



掃き出し窓と手摺

■ 課題

伝統的な素材と新しい素材（ステンレスやアルミ製）とのデザインの調和をどう図っていくか。

Ⅱ－6－3 付属：庇・霧除

庇・霧除の活用

既存の建物やまち並みの景観を構成する壁面デザインのアクセントとして、庇や霧除が重要な役割を果たしている。また、機能的には日差しの調整や雨仕舞の役割を果たしている。

庇・霧除の素材：木・金属等

伝統的な和風の庇



木製の庇



軒と庇が複層する事で、趣と重厚感が出ている。

現代風のシンプルな庇



三角形（富士山をイメージ）の小庇

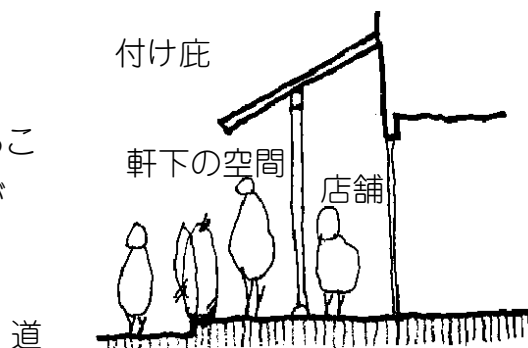


アルミ製の庇

現代風の庇や小庇で、素材はアルミやステンレスであるが、高温多湿な地域においては雨の吹込みを防ぐ機能があり、建物のデザインのひとつとなっている。

付け庇（土庇）

道に面した建物の出入口に付け庇を設けることにより、軒下のコミュニケーション空間が生まれる。



■ 課題

景観との調和を考えたデザインを工夫する。

Ⅱ－6－4 付属：その他（格子の活用）

格子の活用を考える

格子により建物やまち並みを修景する場合、目隠ししたい部分にほどよい見通しを残し、人の気配を感じさせながら隠蔽することができる。

格子の素材：木・竹・金属等

町屋に学ぶ格子



町屋の竹格子による生活部分の目隠し



玄関脇の目隠し

現代の格子の手法



木製横格子で鉄骨階段を隠し外観を整える



金属製の格子で建物ファサードの不要な部分を隠す

まち並みの中で露出したくない自動販売機のようなものは、景観に配慮し格子の活用を考える。

■ 課題

くどいデザインにならないよう格子のデザインを工夫する。

おわりに

今回、この「建築物等景観マニュアル」を作成するにあたって、改めて景観とは何か、三島らしさとは何か、ということを考えさせられました。

何度も協議を重ねた結果、「三島らしさ」のある景観を考えるには、壁面デザインに絞って考えることが有効であろうという結論に達しました。

そこで、三島市内の様々な建物やその周辺の写真を収集し、そこから三島らしい雰囲気のある写真や、景観形成に必要な部位についての写真を整理し、体系的にまとめてこのマニュアルを作成しました。

この「建築物等景観マニュアル」が、三島らしい景観の統一的な基準となり、三島市の景観形成の一助となれば幸いです。



用語の解説

- ヒューマンスケール 人間の身体に最も近い尺度、建築や外部空間などで人間が活動するのにふさわしい空間や物のスケール。
- シークエンス ひとの身体移動をともなって体験される多様な意識の変化する景色。例として神社の参道空間や回廊式日本庭園の構成はドラマチックな展開を見せる空間の魅力がある。
- ランドマーク 土地における方向感覚の目印になる建物、国や地域を象徴するシンボリックなモニュメント、建築、空間を意味する。
ランドマークは、方向を見定める場合の手軽な道案内としての役割、その都市のイメージを決定付けるものである。
- テクスチャー 形態、色彩と並ぶ造形要素の一つで、材料の表面が触覚や視覚に与える材質の感覚や全体的な効果を指す。質感や素材感のこと。
建築等の設計の立場からは、内外の空間の表面をどのような素材で仕上げるかにかかわり、形態や色彩と同様に重要な造形要素である。また、テクスチャーは均質な空間に変化を与え、人がその空間を把握する際の手がかりになるという機能をもつ。

参考資料

- ・『三島市景観計画』 三島市 2009年
- ・『三島アメニティ大百科』 グランドワーク三島 三島市 2001年
- ・『平成3年度歴史的建築物保存事業（三島）』 (社)静岡県建築士会 1991年
- ・『仕組まれた意匠』 川崎 清・小林正美・大森正夫 鹿島出版会 1991年
- ・『空間体験』 日本建築学会 (株)井上書院 2003年
- ・『パタン・ランゲージ』 C・アレグザンダー他 鹿島出版会 2004年
- ・『ニッポンの建築素材』 (社)日本建築士会連合会 2009年
- ・『日本のすまい』 中山 章 (株)建築資料研究社 2009年
- ・『向こう三軒両隣り』 田中敏博 (株)インデックス・コミュニケーションズ 2005年
- ・『風景デザイン』 進士五十八他 (株)学芸出版 1999年
- ・『真鶴町まちづくり条例 美の基準』 真鶴町 1992年
- ・『ムラの風景をつくる』 ゆふいん建築・環境デザイン協議会 2000年
- ・『住まいづくりマニュアル』 小布施町まちづくりデザイン委員会 小布施町 1992年
- ・東京都環境局 『壁面緑化ガイドライン』
<http://www2.kankyo.metro.tokyo.jp/heat/wallgreen/hekimen%20guideline.htm>

建築物等景観マニュアル

平成22年3月発行

編集 (社)静岡県建築士会 景観整備機構

三島市建設部都市計画課

静岡県三島市北田町4-47

TEL 055-983-2631

URL <http://www.city.mishima.shizuoka.jp>

E-mail toshikei@city.mishima.shizuoka.jp

建築物等景観マニュアル

平成22年3月発行

編集 (社)静岡県建築士会 景観整備機構

三島市建設部都市計画課

静岡県三島市北田町4-47

TEL055-983-2631

URL <http://www.city.mishima.shizuoka.jp>

E-mail toshikei@city.mishima.shizuoka.jp